

「日常ではできない体験を楽しむ」「ランナーからありがとうの声もらう」

—ボランティアページ 参加団体のコメントから



山の手高校は10.8km地点での給水を担当しました。引率した同校ボランティア部顧問の西田恵理先生は、2年間中止のあとなので、参加した1年生から3年生までがみな初めての体験だったといえます。

● 仮装ランナーの元気さに驚く

「生徒はどんなことをするのか、よくわかっていないなかで集合したのですが、水の準備が追い付かないうちに一気にランナーが来て大忙し。足を止めて水を待ってくれるランナーに申し訳ない気持ちになったり、仮装のランナーの元気の良さに驚いたり。みんな日常ではできない経験が出来たと思います」

終わってからの反省会ではああすればよかった。あれが楽しかったと大いに盛り上がったそう。「昨年の体験者が『まじで楽しい』と友達や後輩を誘ってくれています。今年も元気に参加します」

● 仲間がマラソンに出走するので

新川通の20.2kmでは自衛隊の退職者が集う公益社団法人「隊友会」のみなさんが初めて給水に参加しました。「仲間が大会に出場することもあって」という世話役の川島光弘さんは「ランナーへ頑張れと声をかけると『ありがとう』と返事が戻ってくる。いいですね。今年もまた道内から会員らが集まって頑張ります」といいます。

● ベテランボランティアが準備をスイスイ

前田緑苑町内会は22.5kmの給水が持ち場。堤優花さんは「輪番で町内会の役員（総務）が回ってきたので、初めてのボランティア参加。町内会としては3年ぶりのボランティアになりますが、ベテランがいて準備がどんどん進んでいくので、初心者としては大船に乗った気分でした。3年ぶりのボランティア活動を皆さん楽しんでくれたと思います。2023大会も頑張ります」と話す。

新川通・25.2kmの給水に参加したNTTネクシアの高島裕子さんは「マラソンもボランティアもまったく経験なしでした」とほほ笑む。「初めはどきどきしていましたが、トップ選手のスピードの速さやランナーの大集団の迫力はびっくり。がんばってと声をかけると『ありがとう』と返してくれてうれしかったですね」

「備品で足りなくなったものもあって、大変でしたがやり終えて充実感が。今年も呼びかけに新しい人も応えてくれました。精一杯応援しながら給水ボランティアをやりたいとおもいます」と意欲を燃やしています。

ボランティアの仲間の集合写真、コメントを送ってください

北海道マラソン公式ホームページは大会終了後にボランティアページを更新します。給水、コース整理など活動内容を問わず、参加されたみなさんの集合写真か活動写真、コメントをNPO法人ランナーズサポート北海道のメール runsupport@aurora-net.or.jp へ送ってください。

